

感動の場

『白い壁黒い牛』
1982年 小川原 脩 画

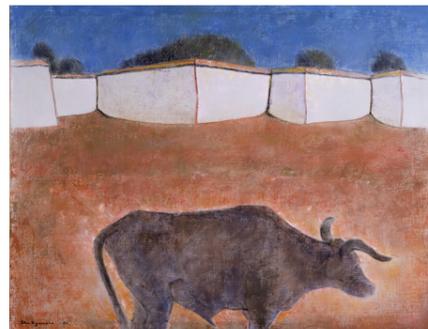
1958（昭和33）年、小川原脩は野本醇、穂井田日出麿ら俱知安ゆかりの美術家と共に「麓彩会」を結成しました。この作品は24回目となった麓彩会展に展示した中の1点で、チベットの街の情景を描いています。

1981年と1982年に小川原は夏のチベットを訪れました。当時の新聞に、チベットの旅について書いた小川原の文章が掲載されています。そこには「チベットの夏空は深く澄み切った青だ。なんとも聡明で濃厚で、その下には強烈な直射し、反射する日光が満ちあふれる。何もかもが光の中に輝いて見える。」とあります。

作品に目を向けると、深みのある青で塗られた澄んだ空、直射する日光を反射する白い壁、赤を混ぜた明るい色で乾いた地面が表現されています。牛の体や大きさの違うさまざまな建物の曲線が絵全体をリズムカルに仕上げています。

牛は少し首をかしげて建物の方を向いているようです。人が通り過ぎたのでしょうか。チベットの街では牛と人が同じ地面、同じ時の流れの中に存在すると小川原は語っています。私はこの絵を眺めると、時間がゆったりと過ぎていくチベットの街角に佇む旅人の気分になるのです。

文：金澤 逸子（小川原脩記念美術館 学芸スタッフ）



ふる探訪

新年に電灯がともる－大正6（1917）年1月－

489回

俱知安に初めて電灯がともったのは大正6（1917）年1月。当時の新聞には『後志特報（俱知安支局）電気営業開始』の見出しが載っています。

「俱知安に電気を」と本格的に動き出したのは大正時代に入ってからのこと。最初は町外資本の発電計画を模索しますがうまく進まず、町の有志たちは「1日も早く電気をつけよう」と、大正5（1916）年1月10日に『俱知安電気株式会社』を設立するとすぐに工事に着手。パーペナイ川（現京極町字春日）に水力発電所を建設し、電柱を立て電線を引き、12月25日には試験点灯を成功させ、翌大正6年1月1日から電気を供給する体制を作り上げます。記録には、供給開始時の点灯戸数813戸、電灯個数2,665個、使用電柱473本、電線延長約66キロとあり、これを1年足らずで成し遂げたパワフルさに驚かされます。

家々にともった電灯は、明るさ20ワ程度程度の白熱電球が一般的でした。現在の蛍光灯やLEDとは比べものにならない小さな灯りですが、ランプとロウソクで暮らしていた当時の人にとって、この“文明の灯り”は、大きな驚きとうれしさいっぱいのお年玉となったことでしょう。

さて、冒頭の新聞記事には「大風雪のため検査が遅れ10日から正式に営業を開始」と書かれています。雪に悪戦苦闘したあたり、なんとも俱知安らしい歴史でもあります。

文：紺谷 貴之（俱知安風土館 学芸補助員）



▲大正5年に設立された俱知安電気株式会社

展覧会のお知らせ

■第1展示室

第65回麓彩会展

会期：開催中～1月14日(日)

小川原脩展「感動の場一点」

広報くっちゃんに1998年から続くコラム「感動の場一点」。小川原自身が名付けたもので、現在は連載を開始して25年、掲載回数は300回を越えました。同コラムでつづられた紹介文とともに作品をご覧ください。

会期：1月27日(土)～5月12日(日)

■第2展示室

小川原脩展「小川原脩と麓彩会」

会期：開催中～2月12日（月・祝）

アート・イベントのお知らせ

■土曜サロン

おとなの手しごと（24）「箱絵 作ってみよう、描いてみよう！」

空き箱に絵やコラージュで、思い思いの作品を作ります。

日時：1月13日(土)14時～16時 会場：ロビー（無料）

お相手：金澤逸子（学芸スタッフ）

定員：10名※要予約、高校生以上、親子可

■ミュージアム・コンサート

1時間のクラシック「朗読劇 イノック・アーデン～語り手とピアノのための」

イギリスの海辺の小さな村を舞台に、美しい娘と幼なじみの男女3人が紡ぐ無償の愛、誠実な友情が描かれる物語。詩人・テニスンによる散文詩（1864年作）をシュトラウスが朗読劇（メロドラマ）に仕立てました。大家さんによる日本語版を上演します。

出演：則竹正人さん（朗読・バリトン）、大家純子さん（ピアノ）

日時：1月27日(土)14時～15時

会場：ロビー※予約不要・無料・当日先着50席

■美術館で「成人の日」記念撮影をしませんか

新成人の皆さん、家族・友人と一緒に、美術館で記念撮影をしませんか。晴れ着が映える美術館の空間を、撮影用に無料開放します。ぜひお立ち寄りください。

日時：1月6日(土)・7日(日)・8日（月・祝）

会場：当館ロビー、展示室（撮影できない作品もあります）

※「新成人です」と受付に伝えてください

■ロビー・ギャラリー

冬期間に「ロビー・ギャラリー」（町内や近隣町村で創作活動を行う作家・愛好家の展示）を開催します。会期・出品作家など、詳しくは町HPをご覧ください。

■照明設備改修工事のため臨時休館します【1月15日～26日】

第1展示室照明LED化改修工事のため、1月15日(月)～26日(金)まで休館します。27日(土)は展示替え初日の無料開放日です。新しい照明設備での作品鑑賞をどうぞお楽しみに。

ミュージアム 通信

小川原脩記念美術館 ☎21-4141

観覧料：一般 500円（400円）

高校生 300円（200円）

小中学生 100円（50円）

俱知安風土館 ☎22-6631

観覧料：一般 200円（100円）

高校生以下、美術館観覧者無料

開館時間は9時～17時

入館は16時30分まで

※（ ）内は10名以上の団体料金

1月の休館日 毎週火曜日、5日まで（年始）、

美術館は15日～26日（照明

設備改修工事のため）、

美術館は展覧会初日のため27日は観覧無料

ありがとう絵本館

平成6年7月にオープンした絵本館は、町営プールと新しい絵本館の複合施設整備のため、現行の青少年センターでの営業を11月23日をもって終了しました。当日は「絵本館引越し記念イベント」も開催され、人形劇や絵本譲渡会といったメニューが行われ、大盛況となりました。

そんな中、俱知安中学校美術部生徒の制作による大型作品『繫』の展示も実施。これが本当に「大型」でして、世代交流センターの2階キャットウォークに届くほどの高さで、幅に至ってはその倍はあろうかという大作。太陽系の星々を白い線路で繋ぐ、壮大なスケールの作品でした。

絵本館は既に文化福祉センター東側の仮施設で営業を再開していますが、複合施設整備に向け、利用してきた方々の想いを「繫いで」行けるよう、着実に進めていきます。

館長 福原 秀和

